

2023年12月10日 No.3697

先週の講壇から

「火の消えたランプ」

マタイによる福音書 第25章1節～13節

聖句「愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』」(25:8)

1. 《ドジを踏む》 約30年前の失敗談です。朝寝坊して、礼拝に遅刻してしまったのです。「交換講壇」(別の教会との組み合わせで、牧師が講壇を担当する)でした。相手教会までは、自動車で1時間を要しますが、追い越し禁止区間が続き、私の前を軽トラが時速30キロで走っています。その内、私は腹痛まで催して、何とか説教には間に合ったものの、脂汗が止まりませんでした。
2. 《トラブル!》 それ以来「羹に懲りて膾を吹く」で、「交換講壇」ともなれば、早出するようにしています。北海教区では、札幌から150キロ離れた留萌の教会に行きましたが、早く着き過ぎて、教会が未だ閉まっていたこともあります。M牧師はC教会に行った際、説教原稿を自宅に置き忘れて、頭が真っ白になり、昨夜、読んだという立花隆の『サル学の現在』について語り続けました。説教にイエスさまが出て来ない。出て来るのはニホンザルだけ。けれども、C教会では、礼拝後に事の真相を知って、教会員は大爆笑したと言います。「トラブル等、持ってた他」「礼拝にトラブル等あってはならない」と考えるか、「人間のしている事だから、トラブルもあるだろう」と考えるか、各々の礼拝観が問われるところです。
3. 《スペアの油》 新約聖書の時代、結婚式では、花婿が花嫁を迎えに来る風習がありました。それを花嫁と介添えの乙女たちが出迎えた後、花婿に家まで「花嫁行列」をして披露宴が始まるのです。何等かの理由で花婿の到着が遅れ、乙女たちは眠ってしまいました。真夜中に花婿の到着が告げられ、乙女たちは出迎えようとしますが、スペアの油を用意していない乙女たちは、本番に自分の役割を果たせないばかりか、今宴会場からも閉め出されてしまうのでした。「備えあれば憂いなし」と言いますが、私たちの人生には備えようの無いトラブルが起こるのです。況して、これは「世の終わり」の譬えです。そんな時の「予備の油」とは何でしょうか。私は「祈り」だと思います。憂いの中にあっても、火を燈し続けることです。祈り続ける人たちを、イエスさまは閉め出されは為さしません。

朝日研一朗牧師